

平成27年7月22日

守谷市議会議長 殿

委員長： 高橋 典久 印

報告者： 川名 敏子 印

文教福祉常任委員会 視察・研修報告

標記の件について、次のとおり 実施 ・ 参加 したので報告します。

視察・研修日	平成27年6月26日（金）
視察・研修場所	株式会社アップルファーム 「六丁目農園」
視察・研修項目	障害福祉サービス事業所の野菜ビュッフェレストラン事業
参加者	守谷市側 文教福祉常任委員会委員6名（高橋典久，副委員長 高梨恭子，川名敏子，佐藤剛史，高梨隆，渡辺秀一） 保健福祉部次長，議会事務局
	相手側 株式会社アップルファーム代表取締役 渡部哲也氏
視察・研修目的	障がい者の就労支援に力を入れている事業所を視察し，経緯や成果，利用者の様子や課題をきく。
視察・研修内容	経営者からの説明及び現地視察（別紙参照）
視察・研修総括 （今後の取組み等）	六丁目農園は，新鮮野菜自然派ビュッフェ レストランです。障がい者の就労支援を目的にオープンしたレストランで，知的，身体，精神の障がい者20名を雇用しています。ランチで3時半までの営業で，品数豊富でおいしいと，大変人気を集めています。障がい者雇用を目的に始めた事業で，素晴らしい。考え方や取り組み方が，大変参考になりました。

視察・研修内容

①設立経緯，事業内容

飲食店の経営経験がある渡部氏は、「精神障害者社会適応訓練」を利用し、たい焼き屋を開始。その中で「やりがいを感じる仕事であれば、障がいを持った方でも戦力になれるのでは」と感じた。特にH君との出会い・気づきをきっかけに脇役から主役になれる環境整備を目指した。

②経営理念

六丁目農園は、(株)アップルファームが運営している障がい者雇用施設の一つで、「障がい者を納税者にする」、「やりがい，生きがいの創造」、「経済的自立をサポート」という企業理念のもと、障がいを持った方を雇用し、その人数は従業員の半分ほどである。

③特徴

他の障害者雇用施設との大きな違いは福祉的支援と民間的収支のバランスを兼ね備えていること。従来の障害者雇用施設は「障がい者は仕事ができない」という考えのもと仕事がプログラムされており、本人の能力よりも低いレベルの仕事をしている障がい者の方が多く見られた。障がい者の前に「人」であることから、人から喜んでもらうため（自立から依存）作業からサービスであることを意識している。

また、成長・可能性を信じるという意味から、「手を出さない支援」も意識している。

④今後の課題等

支援学校を卒業してすぐに一般就労は、失敗の連続にもなり、本人が自信を無くしてしまうケースがあるため、家庭，学校，支援施設，企業，地域との連携支援（環境づくり）が重要なポイントである。主役は障がい者（利用者）であり、施設が楽をしてはいけない。障がい者の方々との通訳的役割が重要であり、心のバリアフリーが必要となる。

代表取締役との対談で、障がいを持った方を職人集団に育て、質の高い料理・サービスを提供し、障がい者の自立支援と企業としての収益性の両方を兼ね備えている、新しいタイプの「障がい者雇用施設である」と感じた。